

八十二
5091
8

源氏袖鏡第六

十二 志あをせ

十三 ねりせ

十四 うとくも

十五 あさりか

十六 をとらん

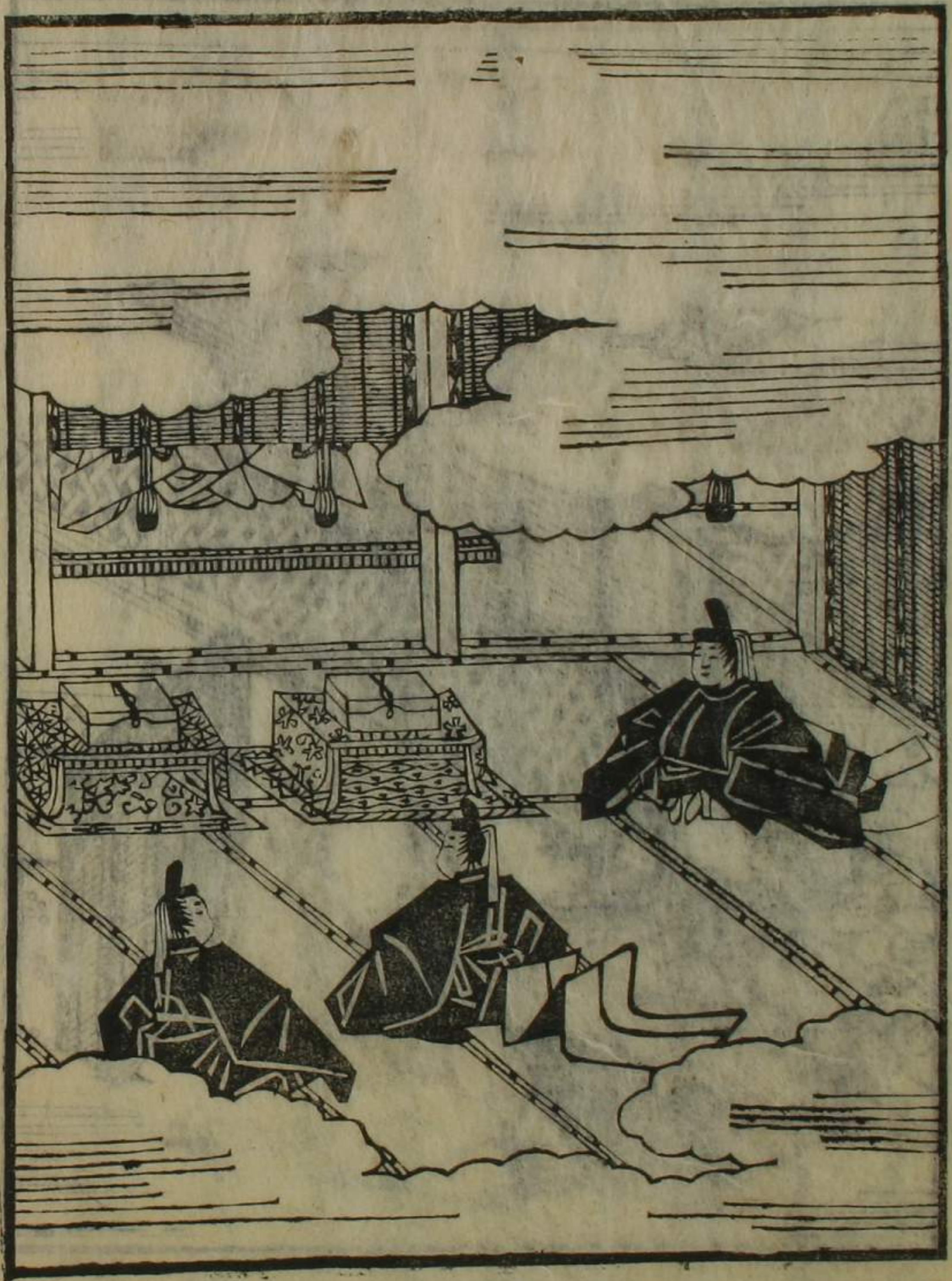
源氏物語
源氏物語
源氏物語
源氏物語
源氏物語



源氏

十二 繪合

お新あたらまをい源氏の中へ此のまゝしてうら
まの世をい給米菴院にり世へ下り給ひ
時大にそんそわさせらるるまの給へ時乃
あつらふとゆふまをては又そんかひひ
まもふまのまのまのまのまのまのまの
そのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの



いせの海れもたれをこころすてありはし
 作らるるやまのいさあけのりのかさきとほる
 いせ物語といやうめて右乃大衆れたる

雲の上よおののやわらあつらつら乃
 えこもたらうむおころ入るのまもあかこら
 きさのくはともゆらんしてたつらあつら
 てゆらん

みさあつらうらぬりあつらうらあつら
 のあまれるあつらあつらあつらあつら
 まつらあつらあつらあつらあつらあつら

ひきよ移さうしーれぬそりまろくの後に
なよ人さらもひきよさうたりしりあまうを
ぬあさの事とそ移りひともあさりめ石
のあまれ人けりありしりしりしはあり
月のまはりのさうらまされしりしり
けいのまはるん源氏のゆゑはつひい
こまうやゆてはを

たしひきよのむしりしりしりしりして朝夕
さうらまされぬしりしりしりしりの後に
ゆきまらぬしりしりしりしりしりしりしり

とうらまけんしりしりしりしりしりしり
里るれいしりしりしりしりしりしりしり
おほみさあましりしりしりしりしりしり
やうまそ人さうらしりしりしりしりしり
ましりしりしりしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしりしりしり

あうらまてまはるしりしりしりしりしり
のゆれありしりしりしりしりしりしり

うまやまあしりしりしりしりしりしり
つせそのまはるしりしりしりしりしりしり

おのゝ江へまゝしてひめ君の乳母

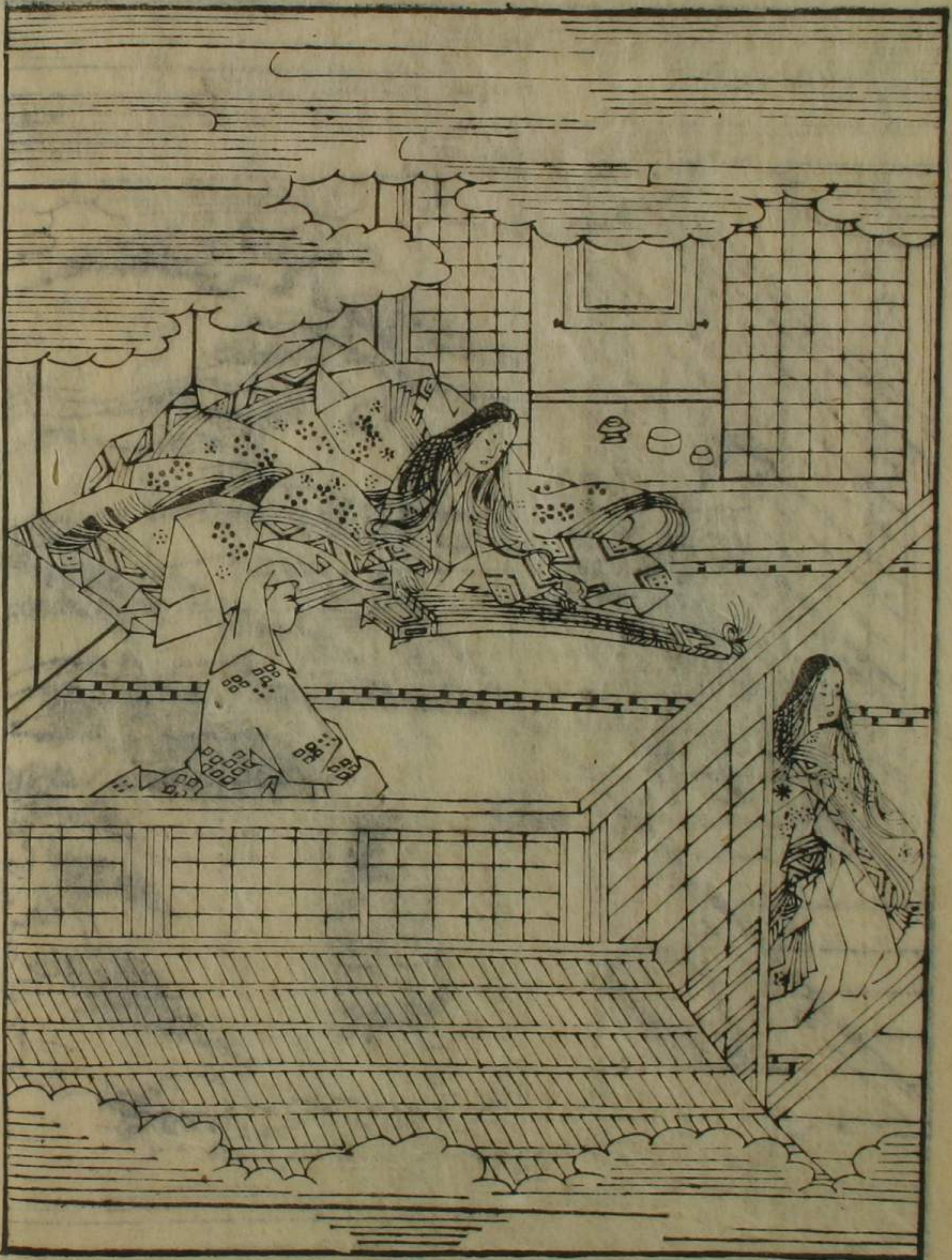
音まねはまより一のつとふのくもんの御

おあはれいめおのつとふきさむいば雷をうと
けて源氏まつらむいよおのりし車よ勢
うらおまてうら君らうらうらてつとめり
おのこのいふハツキくうつらうてめをよと
車よのりおと神をうりてはくよめ石よ

とまをいふに二葉のねよいよいよれら
あうれいけとらうまもいよやとた
おとあふらうらとて源氏

おのうらうらもあけいしたけは海のね

おねのらうはまうん^{あまのつとふ}いとうら
おとらうらとあけしてあまのつとふも
はらうらうらうら^{あまのつとふ}あまのつとふ
も^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}
ら^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}
さ^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}
あ^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}
は^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}
て^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}
ら^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}
と^{あまのつとふ}あまのつとふ^{あまのつとふ}

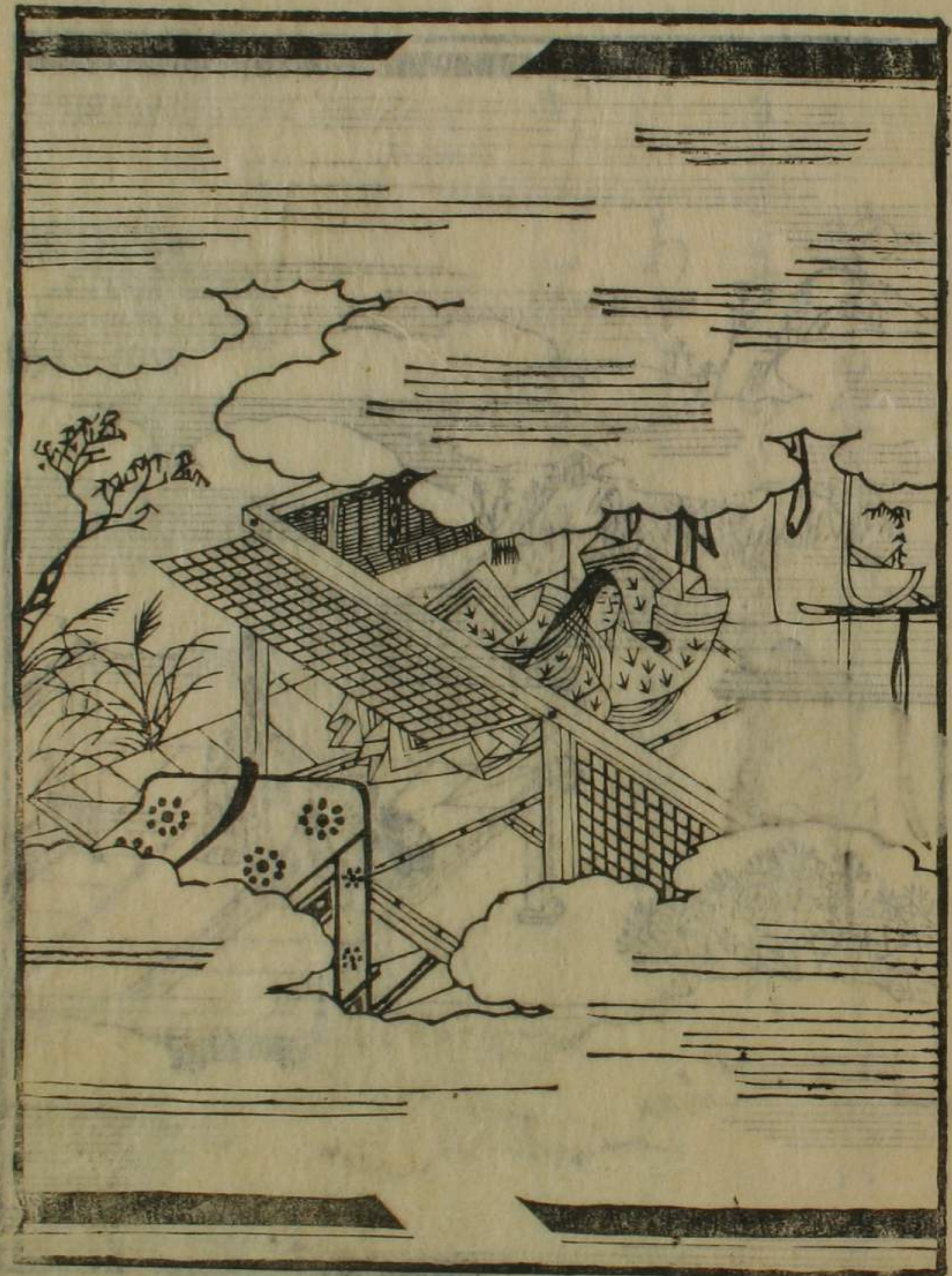


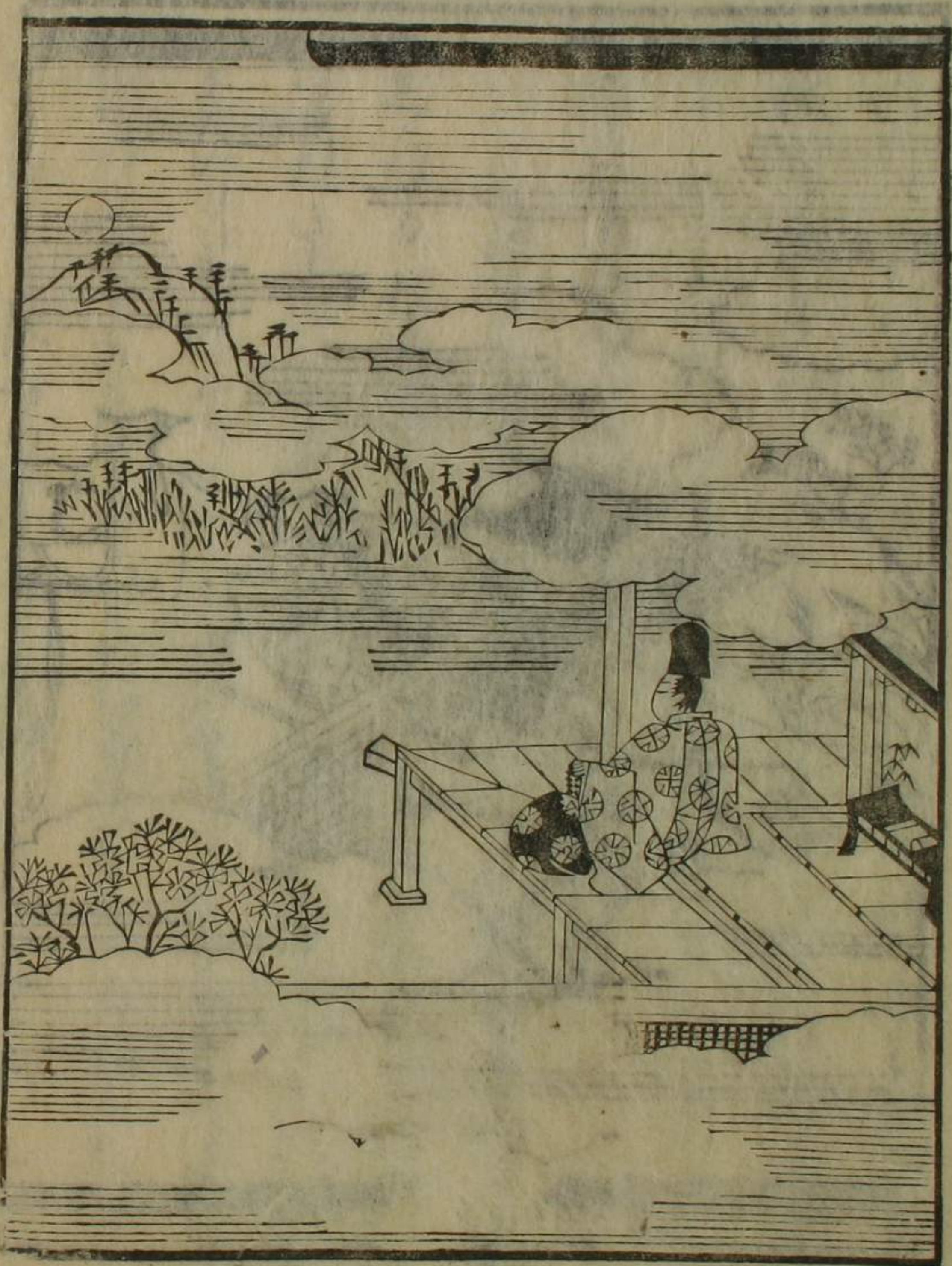
ひね世の母一とておらされい西門も源氏もお
 けしるげくよ又三月は西門の御母入るまきさ
 のまやられ給を申さくくらもわたりておの
 る人まじきまれられけり源氏の程くいらあへ
 たりりの心乃うらとさひあけ給よあふれさお
 きやまや一人の誠つきてかきまら〜まよふまら
 のまきうをみいけりと源氏

入目さすりまねよをぬい〜うを中におきよ
 神よまやまら〜け奇あまをと源氏と名付
 たり入るのまもけしはよふれ給〜源氏の

きたと 禰つやよさる戸始てん 伊母をよと 取の
 杖之れまひーよとろれくきこし 始のー 落れ
 らととも 杖ーとあられよ 始とと ちとけりまを
 のこまひをせいの 源氏

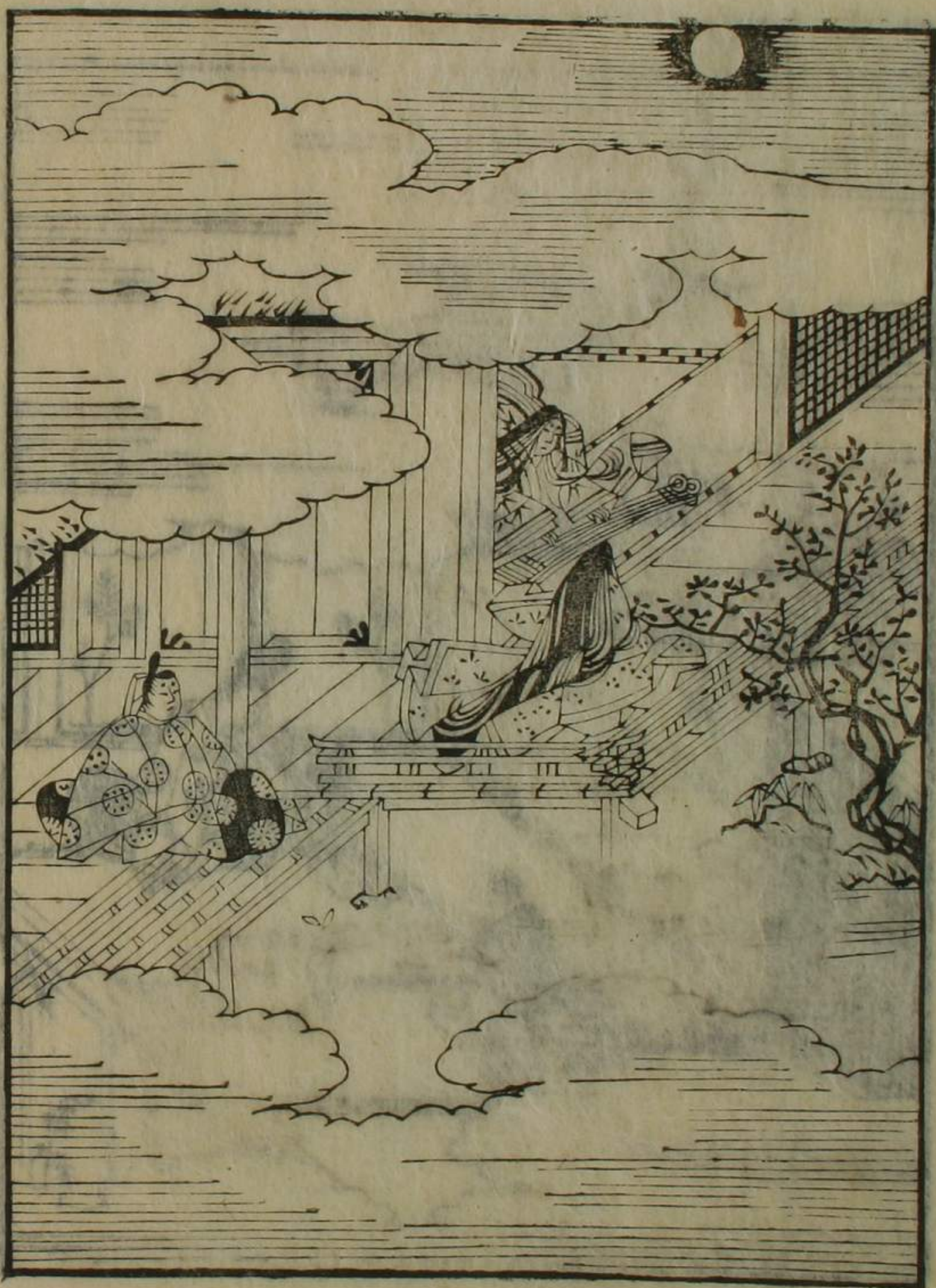
君もさいあられと かせ人あれと 口ろ方よ
 ちけり 杖乃やあ 風けしととゆふ 杖この 山に
 つけとち 穴井よ 是とみを 始くまに ちと
 きひきよと 本しけし 中しと ちかろり 穴の 親
 かのう あと 始の 水の 始とらよ ちと ちと
 ちと 始とら ちと 始とら ちと 始とら





六ノ十二

夕陽の影をうけて
 舟の影もまた
 水にうつりて
 舟の影もまた
 水にうつりて



十六のし

年うらわてま乃ゆらていさむらひ世の中
 あつちかて衣久のやうなまりく笑ふ乃
 まつちのほらまてて大それたもやうけうと
 おあつちつちとさうあうよみさうの目
 大とのうらひのふあうさうじさう
 いきさしは源氏

けさや川どのほもさうりさうみさ
 のうらわつちとじさうのさうさうさう
 花のさうつちさうりさうさうさう

みちのちをわたりてゆく

いづれはよき世にまはりのちをゆくといふはそち
々の中の夜をわけて又世にゆくをよきと
思われしはついでに世のちをゆくをよきと
人よりくちをゆくをよきとみよきとよきと
くちをゆくをよきとみよきとよきと

世にまはりのちをゆくといふはそち
々の中の夜をわけて又世にゆくをよきと
思われしはついでに世のちをゆくをよきと
人よりくちをゆくをよきとみよきとよきと
くちをゆくをよきとみよきとよきと

甲子年よりあつてして言ひたつたはよきと
大く乃ち言ひたつてして言ひたつたはよきと
ありしはよきと言ひたつたはよきと
流してゆくはよきと言ひたつたはよきと
てはよきと言ひたつたはよきと

あつたはよきと言ひたつたはよきと
さしよきと言ひたつたはよきと
うらつたはよきと言ひたつたはよきと
らつたはよきと言ひたつたはよきと
あつたはよきと言ひたつたはよきと

